

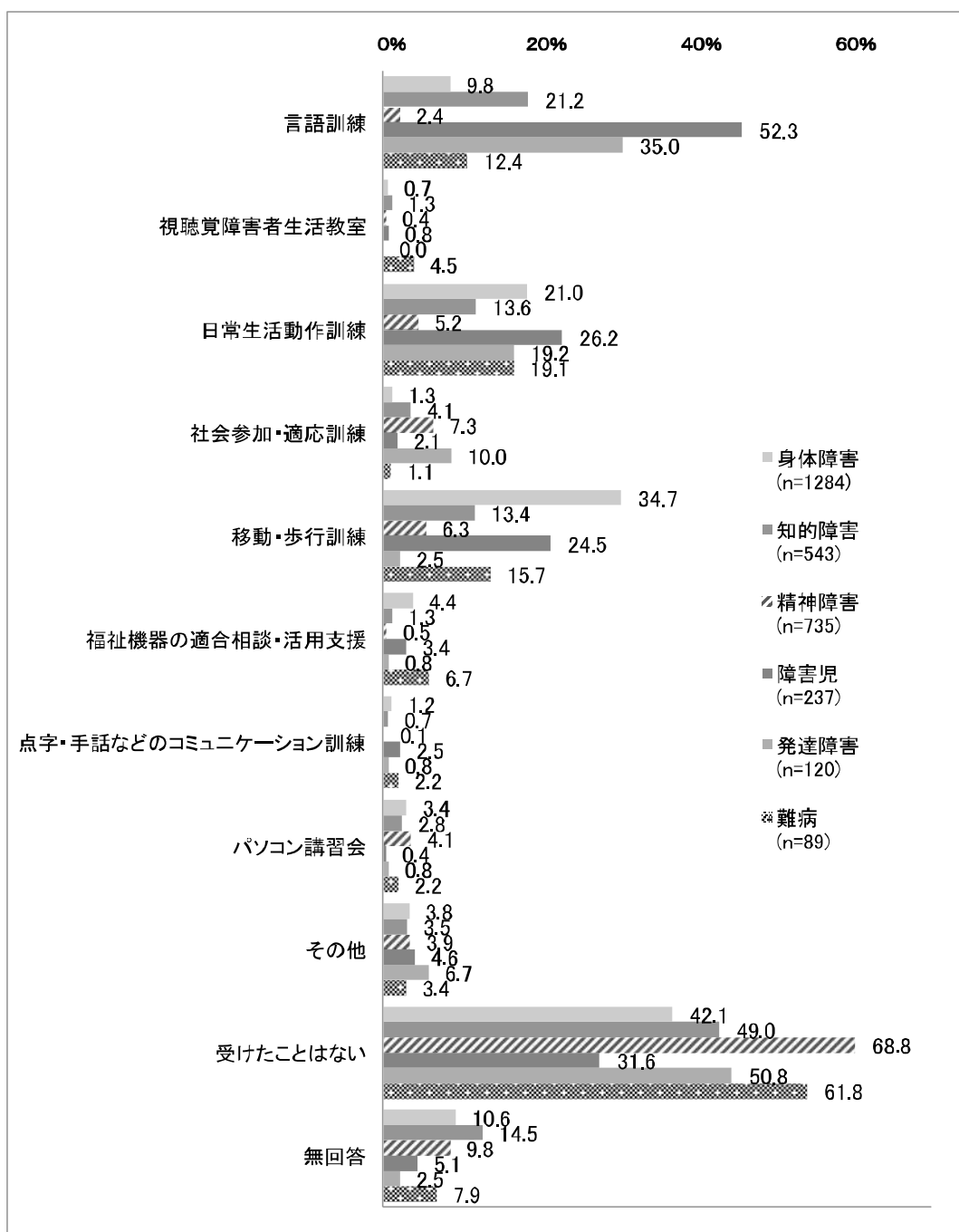
2. 支援体制と障害福祉サービス

1. リハビリ・訓練などの支援について

- リハビリテーションや訓練を受けたことのある回答者の割合は、全体的に少ない傾向にあります。障害児の52.3%が「言語訓練」を受けています。また、身体障害者の34.7%が「移動・歩行訓練」を受けています。

【これまで受けたリハビリテーション・訓練】

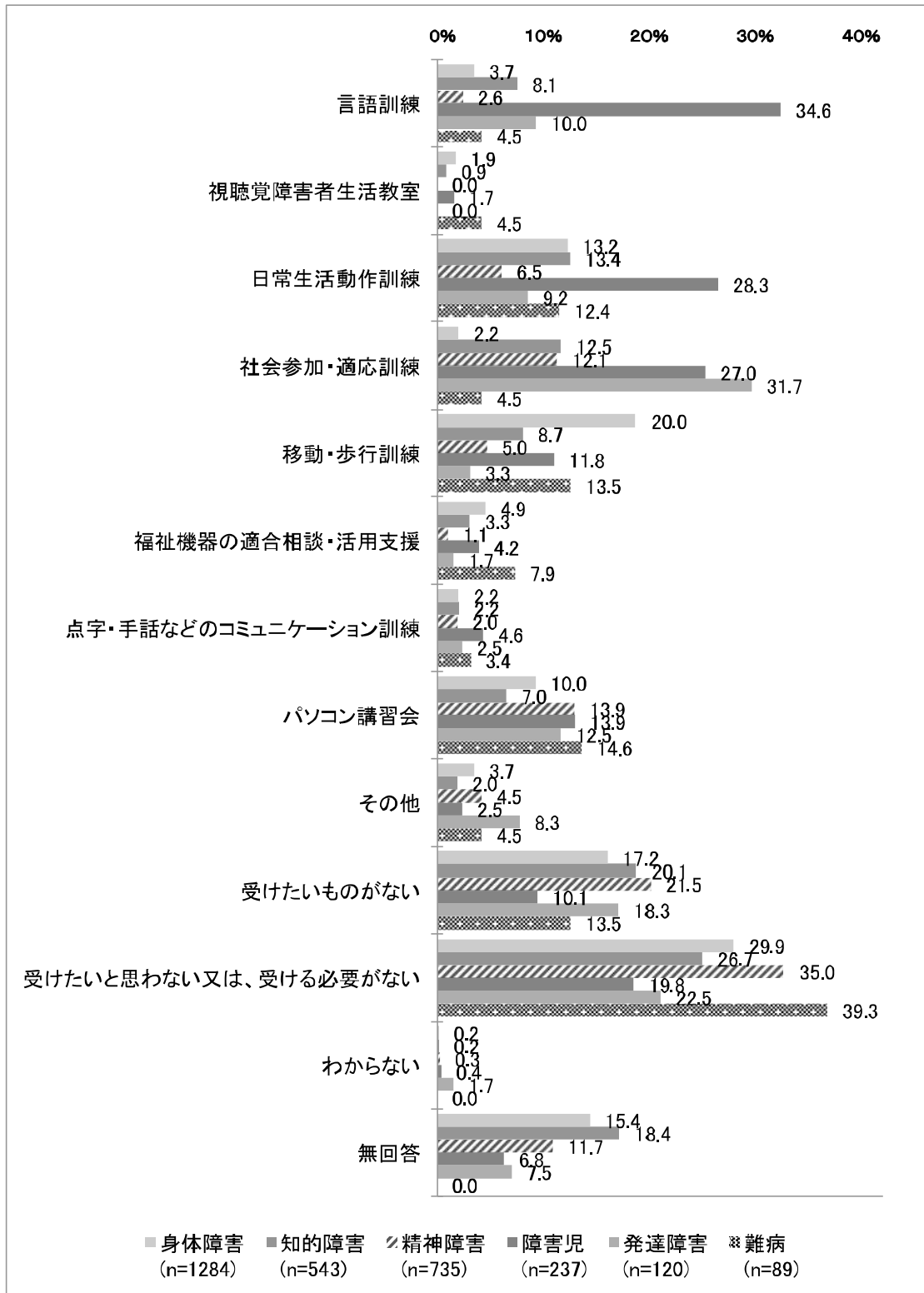
〈複数回答〉



- 今後受けたいリハビリテーションや訓練としては、障害児は「言語訓練」のほか、「日常生活動作訓練」「社会参加・適応訓練」等を挙げています。

【今後受けたい訓練・リハビリテーション】

〈複数回答〉



2. 生活に関する悩みなどの相談について

- いずれの障害種も、生活に関する悩み・不安の相談相手としては、「家族や親せき」を挙げています。続いて多かった相談相手は、「友人・知人」のほか「施設や事業所の職員」、「通院している医療機関の職員」が多く、また、障害児、発達障害者では「通園施設や学校などの先生」も多くなっています。

【生活に関する悩み・不安の相談相手（上位5位）】

〈複数回答〉

	身体障害 (n=1284)	知的障害 (n=543)	精神障害 (n=735)	障害児 (n=237)	発達障害 (n=120)	難病 (n=89)
1位	家族や親せき (59.8%)	家族や親せき (52.9%)	家族や親せき (58.4%)	家族や親せき (70.5%)	家族や親せき (76.7%)	家族や親せき (69.7%)
2位	友人・知人 (22.4%)	施設や事業所の職員 (37.2%)	通院している医療機関の職員 (32.1%)	通園施設や学校などの先生 (46.4%)	通園施設や学校などの先生 (24.2%)	友人・知人 (32.6%)
3位	施設や事業所の職員 (12.9%)	友人・知人 (13.6%)	友人・知人 (26.4%)	友人・知人 (36.3%)	施設や事業所の職員 (20.8%)	通院している医療機関の職員 (19.1%)
4位	通院している医療機関の職員 (10.4%)	相談支援事業所（相談支援専門員） (10.5%)	施設や事業所の職員 (12.5%)	施設や事業所の職員 (27.8%)	友人・知人 (16.7%)	障害者団体や家族会 (12.4%)
5位	行政の相談窓口 (4.0%)	通院している医療機関の職員 (7.6%)	行政の相談窓口 (4.9%)	通院している医療機関の職員 (16.5%)	通院している医療機関の職員 (9.2%)	職場の上司や同僚 (6.7%)

- 実際に利用したことのある相談機関としては、いずれの障害種も約2割が「区役所の相談窓口」を利用しており、障害児と発達障害者では、約6割が「総合療育センター」を利用しています。身体障害者と精神障害者、難病患者については、特定の相談機関を利用していないことが推察されます。

【利用したことのある相談機関】

〈複数回答〉(%)

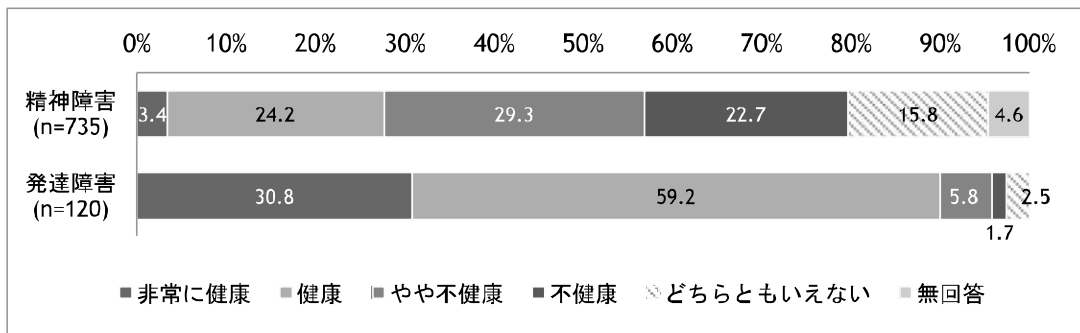
	身体障害 (n=1284)	知的障害 (n=543)	精神障害 (n=735)	障害児 (n=237)	発達障害 (n=120)	難病 (n=89)
区役所の相談窓口	23.6	24.7	22.4	21.9	15.8	19.1
障害者基幹相談支援センター	1.9	5.3	2.7	0.8	5.8	3.4
子ども総合センター	0.2	3.5	1.0	28.7	23.3	0.0
福祉用具プラザ北九州	2.1	1.1	0.3	1.7	0.8	11.2
総合療育センター (地域支援室を含む)	3.6	22.1	3.0	65.0	58.3	2.2
精神保健福祉センター	0.5	0.9	5.6	0.0	0.0	1.1
発達障害者支援センター 「つばさ」	0.2	5.5	3.5	8.0	34.2	0.0
特別支援教育相談センター	0.2	2.2	0.1	7.2	19.2	0.0
北九州障害者しごとサポートセンター	1.1	6.1	3.4	0.0	0.8	1.1
ハローワーク	6.9	5.3	9.8	0.4	0.8	11.2
東部・西部障害者福祉会館	1.2	1.5	0.1	0.8	0.8	1.1
民生委員・児童委員	1.4	1.1	1.6	0.0	0.0	2.2
身体・知的障害者相談員	0.6	3.5	0.5	1.7	0.0	1.1
権利擁護・市民後見センター 「らいと」	0.1	0.9	0.3	0.0	0.0	0.0
相談支援事業所 (相談支援専門員)	4.6	13.1	4.6	8.0	10.8	1.1
障害者差別解消相談コーナー	0.1	0.4	0.3	0.0	0.0	1.1
北九州市社会福祉協議会	1.6	0.7	1.4	0.0	0.0	1.1
市コールセンター、いのちの電話などの電話相談	0.9	0.6	3.7	0.8	0.8	2.2
ピアカウンセリングを実施している相談機関	0.5	0.4	0.7	0.0	0.8	0.0
その他	4.5	4.1	6.8	5.5	12.5	5.6
相談機関を利用したことはない	44.9	26.2	42.7	17.3	17.5	47.2
無回答	17.6	17.7	14.1	3.0	1.7	18.0

「その他」の具体例 ■学校 ■かかりつけの病院 ■聴覚障害者情報センター ■障害者団体

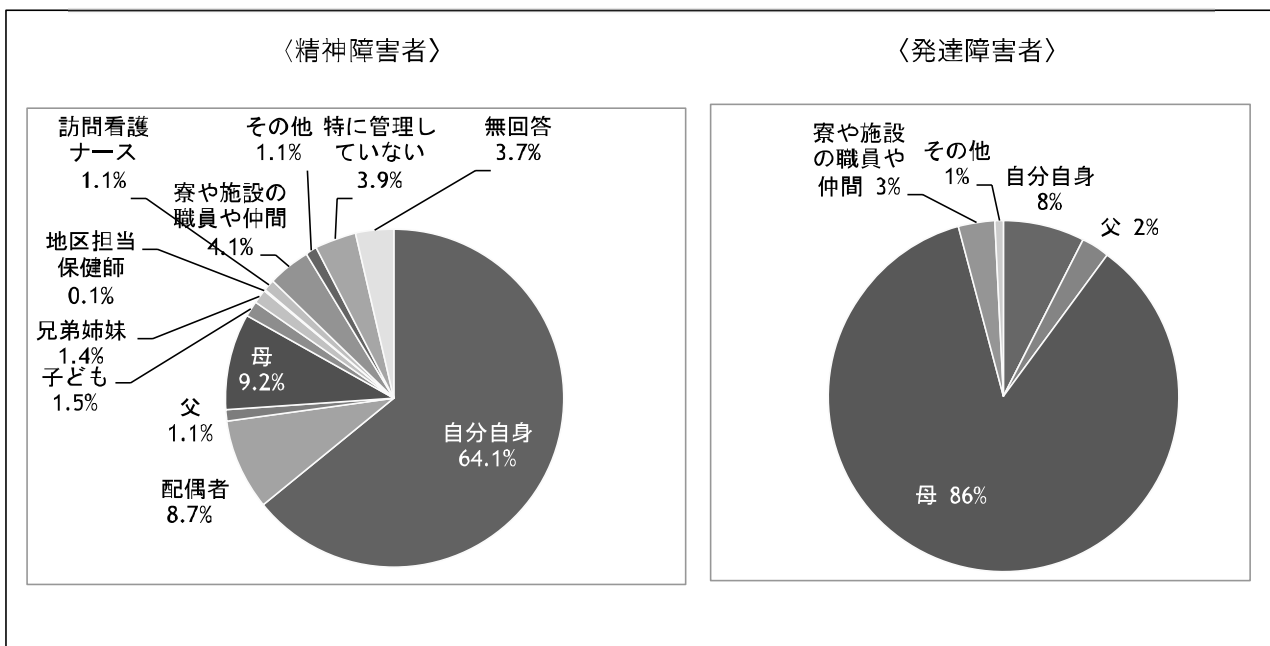
3. 健康状態について（精神障害者・発達障害者のみ）

- 精神障害者の半数程度が現在の健康状態を「不健康である」と判断しています。一方、発達障害者については、9割程度が「健康である」と答えています。
- 日常的に健康を管理している人は、精神障害者が「自分自身」という回答が多いのに対し、20歳未満が多く含まれていた発達障害者では、「母親」が8割以上を占めています。
- 健康維持のために行っていることとして、食生活への配慮と、睡眠を十分にとり規則正しい生活をする事が多く挙げられています。

【現在の健康状態】



【日常的に健康を管理している人】



4. 医療機関の利用について

- 発達障害と診断されたのちの継続受診については、発達障害者の場合、55%が障害の専門医を受診していますが、障害児や知的障害など他の障害と重複する障害者の場合、4割程度が「発達障害について受診していない」と答えています。
- 受診科としては、障害児と発達障害者では、精神科や小児精神科ではなく、小児科の割合が約半数を占めています。

【発達障害診断後の継続受診・支援の状況】

	調査票の障害種別					合計 (n=546)
	身体障害 (n=41)	知的障害 (n=170)	精神障害 (n=102)	障害児 (n=124)	発達障害 (n=109)	
発達障害の専門医を受診している	7 (17.1%)	43 (25.3%)	39 (38.2%)	44 (35.5%)	60 (55.0%)	193 (36.4%)
専門医ではない医師を受診して、発達障害に関する診療や支援を受けている	4 (9.8%)	23 (13.5%)	22 (21.6%)	12 (9.7%)	12 (11.0%)	73 (13.2%)
その他	3 (7.3%)	27 (15.9%)	20 (19.6%)	13 (10.5%)	18 (16.5%)	81 (14.6%)
発達障害について、受診していない	9 (22.0%)	68 (40.0%)	18 (17.6%)	51 (41.1%)	18 (16.5%)	164 (29.5%)
わからない	1 (2.4%)	0.0	0.0	0.0	0.0	1 (0.2%)
無回答	17 (41.5%)	9 (5.2%)	3 (2.9%)	4 (3.2%)	1 (0.9%)	34 (6.1%)

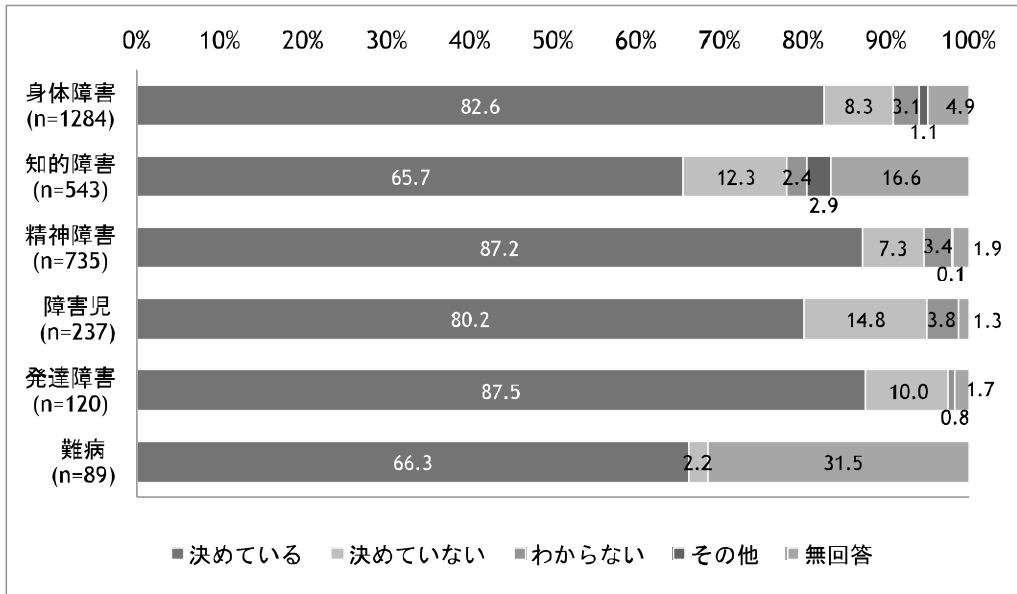
※備考）難病患者には、発達障害と重複する人はいないかったため表に含まない。

【継続受診・支援を受けている場合の診療科】

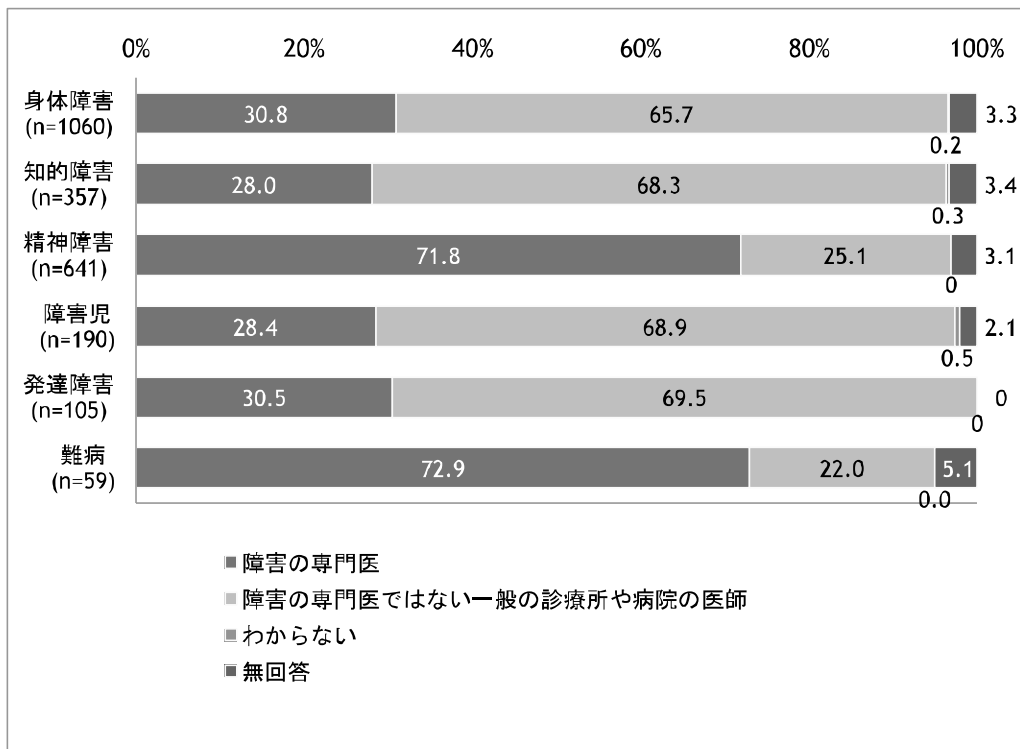
	調査票の障害種別					合計 (n=374)
	身体障害 (n=41)	知的障害 (n=93)	精神障害 (n=81)	障害児 (n=69)	発達障害 (n=90)	
小児科	4 (9.8%)	24 (25.9%)	4 (4.9%)	33 (47.8%)	43 (47.8%)	108 (28.9%)
小児神経科	0.0	0.0	1 (1.2%)	6 (8.7%)	7 (7.8%)	14 (3.7%)
神経科	2 (4.9%)	5 (5.3%)	3 (3.7%)	0.0	0.0	10 (2.7%)
心療内科	7 (17.1%)	12 (12.9%)	16 (19.8%)	2 (2.9%)	4 (4.4%)	41 (10.9%)
小児精神科	0.0	2 (2.1%)	0.0	4 (5.8%)	9 (10.0%)	15 (4.0%)
精神科	2 (4.9%)	30 (32.2%)	53 (65.4%)	5 (7.2%)	12 (13.3%)	102 (27.2%)
その他	8 (19.5%)	8 (8.6%)	2 (2.5%)	10 (14.5%)	8 (8.9%)	36 (9.6%)
わからない	5 (12.2%)	5 (5.3%)	2 (2.5%)	1 (1.4%)	2 (2.2%)	15 (4.0%)
無回答	13 (31.7%)	7 (7.5%)	0.0	8 (11.6%)	5 (5.6%)	33 (8.8%)

- 「かかりつけ医」を決めている人は7～8割程度です。しかし、精神障害者と難病患者を除き、「かかりつけ医」が障害の専門医である割合は3割程度となっています。
- 難病の専門医を受診している患者の80.9%は、市内の専門医の診察を受けています。

【「かかりつけ医」の有無】

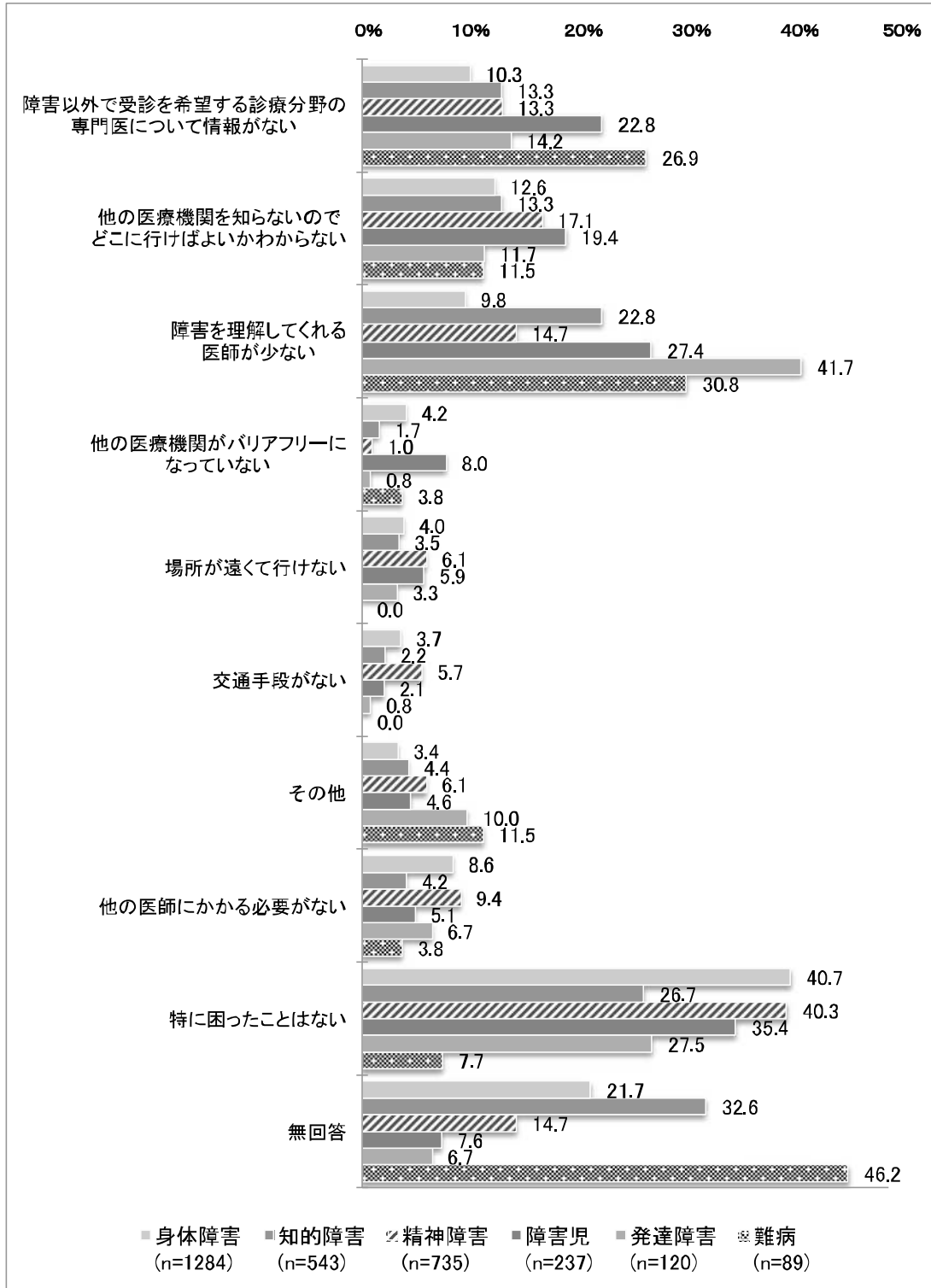


【「かかりつけ医」は障害の専門医かどうか】



- 「かかりつけ医」や障害の専門医以外の診察で困ったこととして、発達障害者や難病患者、障害児においては特に、障害に対する理解が十分でないことを指摘する回答が多くあります。

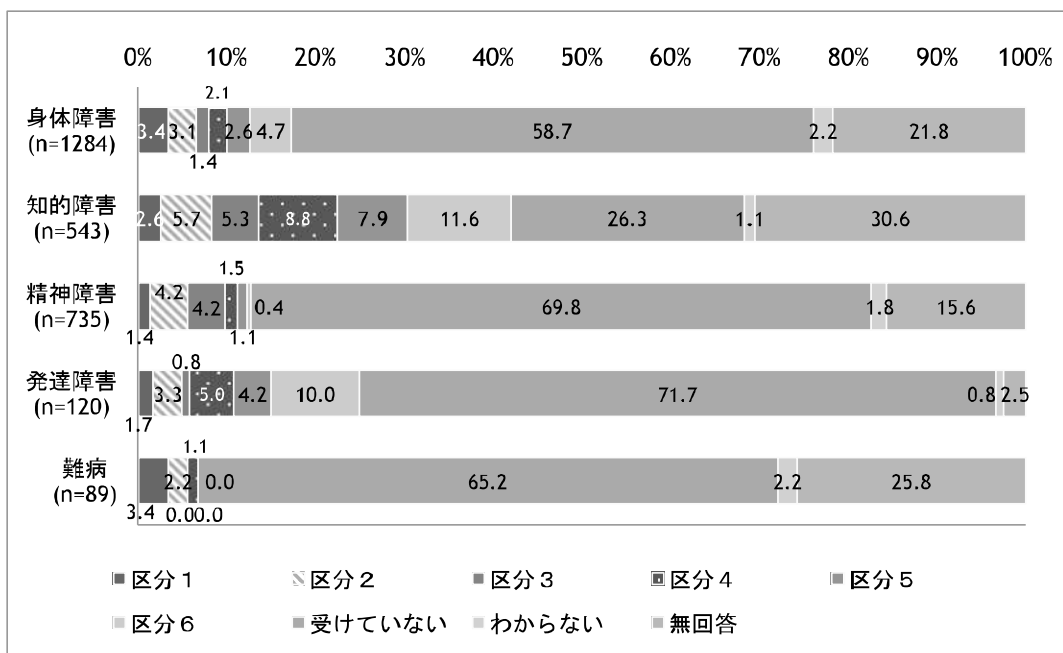
【「かかりつけ医」や障害の専門医以外の診察で困ったこと】 〈複数回答〉



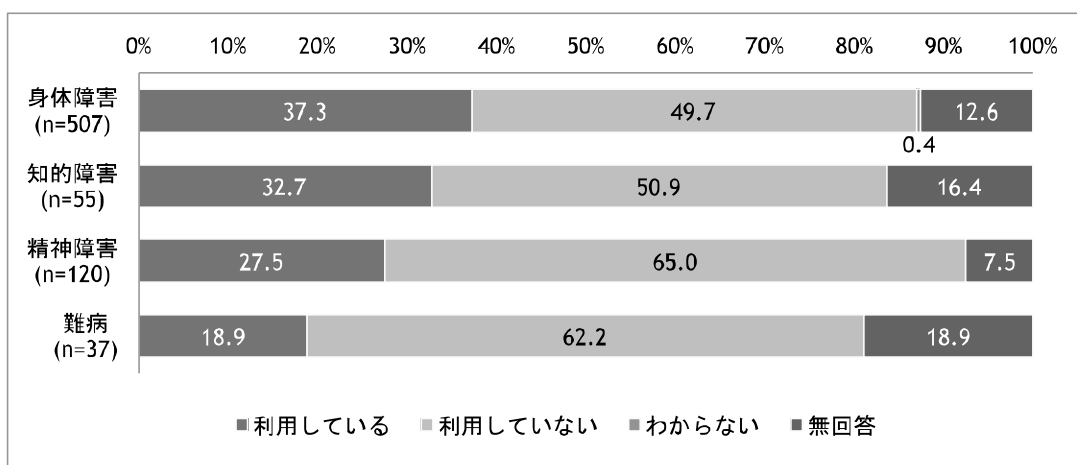
5. 障害福祉サービス等の利用について

- 障害支援区分については、知的障害者の約半数が認定を受けていますが、身体障害者、精神障害者、発達障害者においては、回答者の約2割、難病患者では、1割程度しか認定を受けていません。
- 65歳以上の回答者のうち、介護保険サービスを受けているのは身体障害者の37.3%が最も多く、最も少ない難病患者で18.9%となっています。

【障害支援区分の認定状況】



【介護保険サービスの利用状況（65歳以上）】



- 障害福祉サービスのうち、障害支援区分の認定を受けて利用できる介護給付サービスの利用率は、身体障害者では居宅介護と生活介護が多くなっており、知的障害者や発達障害者では短期入所と生活介護の利用が多くなっています。
- 介護給付サービスの満足度は、知的障害者の同行援護に対する満足度や発達障害者の短期入所に対する満足度が低くなっています。
- その他の各種の障害福祉サービスの利用率は全体的に低いですが、利用者はサービスに対して全体的に高い満足度を示しています。

【介護給付サービスの利用状況と満足度】

		利用率			満足度(%)		
		身体障害 (n=222)	知的障害 (n=228)	精神障害 (n=94)	身体 障害	知的 障害	精神 障害
介護給付サービス	居宅介護(ホームヘルプ)	71(32.0%)	24(10.5%)	20(21.3%)	90.1	95.8	85.0
	重度訪問介護	24(10.8%)	4(1.8%)	4(4.3%)	91.7	100	100
	同行援護	16(7.2%)	5(2.2%)	4(4.3%)	93.8	60	100
	行動援護	12(5.4%)	15(6.6%)	7(7.4%)	91.7	100	85.7
	重度障害者包括支援	17(7.7%)	16(7.0%)	5(5.3%)	88.2	81.25	100
	短期入所	38(17.1%)	50(21.9%)	6(6.4%)	89.5	90	83.3
	療養介護	22(9.9%)	14(6.1%)	4(4.3%)	86.4	64.3	100
	生活介護	67(30.2%)	88(38.6%)	14(14.9%)	97.0	95.5	92.9
	施設入所支援	33(14.9%)	40(17.5%)	11(11.7%)	97.0	90	90.9

		利用率		満足度(%)	
		発達障害 (n=30)	難病 (n=6)	発達 障害	難病
介護給付サービス	居宅介護(ホームヘルプ)	5(16.7%)	3(50.0%)	60.0	66.7
	重度訪問介護	0(0.0%)	1(16.7%)	—	100
	同行援護	1(3.3%)	1(16.7%)	100	100
	行動援護	5(16.7%)	0(0.0%)	80.0	—
	重度障害者包括支援	6(20.0%)	0(0.0%)	83.3	—
	短期入所	12(40.0%)	0(0.0%)	58.3	—
	療養介護	0(0.0%)	0(0.0%)	—	—
	生活介護	14(46.7%)	1(16.7%)	100	100
	施設入所支援	3(10.0%)	0(0.0%)	100	—

備考) 満足度:「満足している」・「ある程度満足している」の合計